



# しがいわ 機会だより

保育園 ひなまつり お茶会

**64**

2008.4.15

平成20年度各会計予算議決	2
3月定例議会	3
予算特別委員会での質疑応答	4~5
予算案の討論	6
一般質問	7~12
議会のうごき	13~15
「究める・人」シリーズ No.4 草屋根葺き	16

# 平成20年度各会計予算議決 3月定例会

一般  
会計

**49億1200万円** (対前年比7.7%増)

**教育費に重点配分**

## 開発センター改修工事 3億2千万円



平成19年8月に改修工事に着手、これまで新3、4階部分の改修及び耐震化工事が完了し、大ホールも可動式椅子を設置するのみとなりました。進捗率は60パーセント。  
平成20年度には、新1、2階部分の改修及び耐震化工事、全体の仕上げを行い、6月に完成する予定です。  
7月に竣工記念事業を開催し、8月の成人式は新装された大ホールで行われます。

## 統合小学校建設事業 3億7977万5千円

平成19年度に、海味アソウ地区の4・5ヘクタールを学校用地として取得し、基本計画設計を行いました。平成20年度には、用地造成と実施設計を行い、いよいよ平成24年度の開校に向けて動き出します。



## 人口集積地造成事業

500万円



定住人口の維持・確保を図るために、役場庁舎南側に人口集積地の造成を計画しています。  
平成20年度には、人口集積地を造成していくための計画を策定します。

一般会計・特別会計予算

会 計	平成20年度 当初予算額 (千円)	対前年度	
		増減額 (千円)	増減率 (%)
1 一般会計	4,912,000	350,000	7.7
2 国民健康保険特別会計	事業勘定	718,663	△ 30,963 △ 4.1
	施設勘定 (大井沢歯科診療所)	3,833	△ 41 △ 1.1
3 老人保健特別会計	78,882	△ 686,470 △ 89.7	
4 簡易水道特別会計	24,198	135 0.6	
5 路線バス事業特別会計	65,587	11,277 20.8	
6 公共下水道事業特別会計	381,512	△ 4,195 △ 1.1	
7 農業集落排水事業特別会計	28,200	2,156 8.3	
8 寒河江夕△周辺施設管理事業特別会計	3,802	0 0.0	
9 後期高齢者医療特別会計	83,564	83,564 皆増	
10 介護保険特別会計	583,340	5,307 0.9	
11 宅地造成事業特別会計	4,360	△ 8,210 △ 65.3	
合 計	6,887,941	△ 277,440 △ 3.9	

企業会計予算

会 計		平成20年度 当初予算額 (千円)	対前年度	
			増減額 (千円)	増減率 (%)
1 病院事業会計	収益的	収入	766,820	△ 2,261 △ 0.3
		支出	766,820	△ 2,261 △ 0.3
	資本的	収入	7,625	0 0.0
		支出	77,050	23,109 42.8
2 水道事業会計	収益的	収入	134,803	△ 2,164 △ 1.6
		支出	134,803	△ 2,164 △ 1.6
	資本的	収入	112,124	86,678 340.6
		支出	172,123	109,855 176.4

# 第1回 3月定例議会で議決された議案

人事案 3件 補正予算案 10件  
 一般議案 4件 20年度予算案 13件  
 条例案 11件



## 人事案

◎西川町監査委員（識見）の選任  
 阿部富雄さん（吉川）再任

◎西川町教育委員会委員の任命  
 佐藤安広さん（入間）新任

◎西川町町有林運営委員会委員の任命  
 荒木竹彌さん（吉川）  
 荒木邦昭さん（沼山）  
 以上、再任

伊藤高志さん（岩根沢）  
 吉見 正さん（海味）  
 以上、新任

## 一般議案

◎町道路線の廃止及びび認定

林道を町道とするために町道大頭森線の認定替え

その他に3議案が議決されました。

## 条例案

◎西川町後期高齢者医療に関する条例の設定

4月1日から始まった後期高齢者医療制度の事務を行うための条例を設定

◎西川町特別職の職員の給与に関する条例の一部改正

昨年度に引き続き平成20年度において、特別職及び議会議員の報酬を次のとおり削減  
 町長15パーセント、副町長7パーセント、教育長4パーセント  
 議長1万円、副議長8千円、議員7千円

その他に8議案が議決されました。

## 補正予算案

◎平成19年度西川町一般会計補正予算（第4号）

150万円を追加し、歳入歳出予算総額は、45億6721万1千円  
 町長が専決処分したものを承認

### 主な内容

◆燃料費高騰による灯油代

補助金（65歳以上の町民税非課税、重度心身障害者、母子家庭及び生活保護世帯300世帯に対し5千円を補助）  
 150万円

◎平成19年度西川町一般会計補正予算（第5号）

2167万1千円を追加し、歳入歳出予算総額は、45億8888万2千円

### 主な内容

◆西川町総合開発㈱出資金（合併によるきらやか銀行一行分を町が買い取りしたもの）  
 4500万円

その結果、町の西川町総合開発㈱（資本金1億円）への出資金総額は5750万円となりました。

◆燃料費高騰に伴う温泉維持管理委託料  
 水沢温泉館 220万円  
 大井沢温泉館150万円

◆省エネ導入支援に伴う強い農業づくり交付金事業費

補助金

92万7千円

◆町道除雪委託料

2500万円

◆育英奨学基金繰出金

251万4千円

◆他会計繰出金

国民健康保険特別会計 892万8千円  
 路線バス事業特別会計 143万円  
 老人保健特別会計 2087万3千円  
 介護保険特別会計 84万7千円  
 病院事業会計 500万円  
 公共下水道事業特別会計 △1004万円

その他に8議案が議決されました。

## 請願

◎採択された請願  
 ◆後期高齢者医療制度の抜本的見直しを求める請願につき

提出者

山形県社会保障推進協議会  
 会長 高木 紘一

◎不採択となった請願

◆後期高齢者医療制度の2008年4月実施の中止を求める意見書を政府等に提出することの請願書

提出者

全日本年金者組合西村山支部  
 代表者 東海林 正志

## 意見書

◎後期高齢者医療制度の抜本的見直しを求める意見書

### 内容

高齢者がいつでも、どこでも安心して医療が受けられるよう後期高齢者医療制度を見直すよう求める意見書

### 提出先

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、厚生労働大臣



# 質疑応答

## 一般会計

### 総務企画課担当事務事業

**Q** 水沢及び大井沢温泉館の管理委託料について、平成19年度より500万円多い3300万円の根拠は。

**A** 燃料費高騰の8割程度の負担を考慮していますが、当初からこの金額で契約する考えはありません。

**Q** 西川町総合開発(株)及び(株)米月山の赤字が毎年増えていくことが考えられますが、経営状況をきちんと示すべきでは。

**A** それぞれの法人で運営するのが基本であり、赤字分は第一義的に法人が考えることと捉えています。

**Q** 西村山地区西部土地開発公社(本町のほが大江町及び朝日町で出資し設立)の利用状況は。

**A** 金利等の関係でここ4年間は利用していません。

西川せせらぎ団地の造成・分譲は町で特別会計を設置して行いました。公社の存続等については、検討を要する事項と捉えています。

**Q** 行政区、財産区及び町内会の見直し状況は。

**A** 見直しの手法について検討しています。

**Q** 平成19年度の議会議員の行政調査に町職員が同行しいつしよに研修しましたが、今後の方向性は。

**A** 同行する方向で考えています。

**Q** 第5次総合計画で掲げる人口の維持・確保のための経済的な裏付けは。

**A** 企業誘致について、西川のまちづくり応援団員の方や県等に話をしています。一方で、起業の方にも期待しています。

**Q** 地方交付税交付金20億5千万円のうち、過疎債等

有利な起債の償還分の算入をどの程度見込んでいますか。

**A** 都市と地方の格差是正等、地方交付税には追い風が吹いていますが、どの程度算入されているかは正確にわかりません。

### 町民税務課担当事務事業

**Q** 購入後12年が経過し、老朽化が著しい福祉バスの更新計画は。

**A** 平成21年度に向けて検討したいと考えています。

**Q** 町税滞納者に対する差し押さえの執行件数は。

**A** 平成19年度で5件執行しました。そのほかの滞納処分も行い、また、不能欠損も出す予定です。

### 産業振興課担当事務事業

**Q** 産業振興と所得向上を図っていく手法は。

**A** コストをいかに下げられるかを考え、農作物等に付加価値をつけて、月山ブランドとして流通させていきます。

### 健康福祉課担当事務事業

**Q** 社会福祉法人西川町社会福祉協議会の在宅介護のヘルパーを社会福祉法人西川保健福祉会(ケアハイツ西川)に統合するなど社会福祉協議会の見直しを行うことにより経費の削減を図ることができのでしょうか。

**A** 本町の人口規模程度であれば一本化した方が経費を削減できます。

**Q** 社会福祉協議会の事務所を老人センターから保健センターに移転した後も、町内各世帯から徴収している会費2800円のうち1800円を老人センターの運営に充てることは理解を得られるのですか。

**A** 今後とも、老人センターは元気な高齢者の活動拠



点として、サービスが低下しないように運営していきます。

**Q** ブライダルサポート事業の推進母体を組織する必要がありますか。

**A** 平成18年度に町外の方も含めた6人の結婚推進員を委嘱し、相談窓口を設置しました。

# 予 算 特 別 委 員 会

## 建設水道課担当事務事業

**Q** 団地造成等を行うときは、事前に都市計画審議会を開催して、いろいろな意見を聴いて進めるべきでは。

**A** これまでは都市計画区域や用途区域の変更を行うときに開催していましたが、今後、必要に応じて改善すべきと考えています。

**Q** 公共下水道の接続率は。

**A** 平成20年1月末現在で66・9パーセント、最も高い町内会は石田で90・6パーセントです。

**Q** 今後も林道整備を続けるのですか。

**A** 現在整備中の熊野線が完了した後に、財政的な観点と山林所有者の方の意見を聴きながら検討します。

## 教育文化課担当事務事業

**Q** 町立図書館は開発センターに整備すべきでは。

**A** 開発センターでは構造的に無理があり、統合小学校計画と併せて検討し、地域開放型の学校を整備していきます。



**Q** 小学校統合後の地域づくりの考え方は。

**A** 公民館事業が中心になると考えますが、教育委員会として今後、さらに検討していきます。

## 国民健康保険特別会計

**Q** 保険税率改定が前提の

予算案ですが、条例改正を先に行うべきなのは。

**A** 国会でまだ上位法が成立していない状況です。条例改正案については、平成20年3月中に議会で審議していただく予定です。

## 路線バス事業特別会計

**Q** 燃料費高騰の中で、均一料金200円を見直す考えは。

**A** 平成24年度の統合小学校開校までに、運行体制の見直しと併せて検討していきます。

## 農業集落排水事業特別会計

**Q** 未加入世帯について、町でも加入誘導を図るべきでは。

**A** 状況は確認しており、今後、個別交渉に努力していきます。



## 寒河江ダム周辺施設管理事業特別会計

**Q** 平成19年度の利用者数は2700人で、平成11年度の7700人から大幅に減っています。町全体で利用促進を図るべきでは。

**A** 経費の問題等でイベントの開催は難しい状況です。設置者の最上川ダム統合管理事務所とも相談していきます。

## 後期高齢者医療特別会計

**Q** 18万円以上の年金受給

者は年金から保険料が天引きされますが、国民健康保険の基金等を利用して軽減措置を図るべきでは。

**A** 制度上、できません。

**Q** 広域連合議会議員の定数が16人ですが、県内35全市町村から議員を選出すべきでは。

**A** 今後、機会を捉えて要望していきます。

## 介護保険特別会計

**Q** データに基づいた介護予防を行うべきでは。

**A** 一人ひとりが目標をもてるような事業を展開していきます。

## 病院事業会計

**Q** 経鼻内視鏡(胃カメラ)が現在1台ありますが、今後、増設の見通しは。

**A** 検討しています。

**反対討論**

洪谷 雄三郎

5次総では、定住人口の維持確保を図ることを目的としていますが、統合小学校建設に係る予算約3億7966万円以外は、目新しい事業が見られませんし、町立図書館を併設するとか、造成や設計等、その内容を明らかに示さない予算案は容認できません。また、温泉管理業務に3年間で12

70万円を追加した9670万円の委託料は、赤字分の補填に他なりません。

いまもっとも重要なのは、雪対策等の住宅環境整備や、農林商工業・観光等の所得向上と就労場の確保対策ではないでしょうか。とりわけ若者定住対策の一つとして、子どもの医療費の中学校卒業までの無料化等、「子育てするなら西川町」でといえるような施策の展開こそ必要です。

**一般会計予算**

**賛成討論**

古澤 俊一

本町のまちづくりのために、いま必要なことは、一つは今後も持続可能な財政基盤を確保することで、そのために常に行政改革の視点を持ち続け敢然として実行していくことです。さらにもう一つは町民の暮らしにとって何が必要なのか、何を優先すべきかを的確に捉えて果敢に実行して

いくことです。提案された予算案は、これからの町の将来のあり方を的確に見据え、平成20年度から22年度までの最大の取組課題を「定住人口の維持確保」に掲げた中期実施計画を策定し、その計画実現に編成された優れた予算であり、今後のまちづくりに必要な投資を行い、持続的な財政運営のための財政基盤の確保にも十分考慮されており、賛成します。

**反対討論**

洪谷 雄三郎

予算案の審査でも明らかのように、所得割、資産割均等割、平等割の税率を改定し、その結果、応能割合が50・6パーセントから49・5パーセントに、応益割合が49・4パーセントから50・5パーセントにと、応益割合が増える結果となりました。また、最高限度額が56万円から59万円に、葬

祭費が7万円から5万円に なります。所得割、資産割の税率や均等割、平等割、葬祭費等は、町の条例で決められるものであり、条例改正前に保険税の改定を前提とした予算措置は、まったくおかしいし、とんでもないことです。むしろ、基金1億5543万4千円、繰越金1億4786万円を活用して減税を図るのが先決です。

**国民健康保険特別会計予算**

**賛成討論**

宮林 昌弘

平成20年度の本会計について、後期高齢者医療制度が始まることにより、大幅な会計上の見直しが行われ、他市町では保険料の値上げや健康健診項目を削減するなどの動きも聞こえる中であって、本町では後期高齢者支援金分を含めた医療分の保険料を実質据え置いていることは評価できます。

また、特定健康診査についても、国民健康保険については従来と変わらない項目を自己負担額を引き下げて受診できるように配慮するなど、町民にとって安堵できるものです。医療制度改正が激しい中で、今後とも町民の立場に立って国民健康保険会計を運営していただき、被保険者の健康づくりと健全経営を維持できるよう一層の尽力をお願いします。

**反対討論**

洪谷 雄三郎

後期高齢者医療制度は、75歳以上の高齢者を国民健康保険や健康保険から追い出し、1割の保険料を年金から天引きし、医療費がかさめば保険料が上がる仕組みになっています。1割の保険料の値上げが、医療費の制限かという悪魔の選択に追い込んでいく制度で、高齢者医療を根底から変え

ていく制度と言わざるを得ません。また、山形県広域連合議会の定数は、行政のスリム化からして16人ですが、県内35市町村の半分にも満たない16人の議会構成で、全自治体の意向が反映されるとは到底考えられません。保険料滞納者への措置や低所得者への軽減策、高齢者の診療報酬の問題等、問題が山積みしている医療制度です。

**後期高齢者医療特別会計予算**

**賛成討論**

青山 知教

後期高齢者医療制度については、医療制度改革の最重要課題として、各界各層で検討され創設されたものです。今後到来する日本の超高齢化社会に対応して国民皆保険を維持していくための、支え合う仕組みの構築であると理解しています。

昭和57年に老人保健法が制定されて以来の25年ぶりの大幅な見直しということですが、高齢者の医療や介護にも配慮したものであると聞いていますので、全国的に進められる制度が、本町においてもよく理解され、新制度への円滑な移行がなされるよう、町当局に最大限の努力をお願いいたします。



## 行財政改革は、評価、検証しながら継続すべき

町長…組織機構については、毎年検証しており、必要な改善は、その都度実施していく。



宮 林 昌 弘 議員

現在、国、県及び市町村では、行財政改革を断行していますが、町民から見た場合、行財政改革の評価、検証がどのように行われているのか、また、その効果はどのように表れているのか？の観点から次の3点について質問します。

行政経費で最も大きいのは人件費です。町では職員定数削減や行政組織の見直しのために、大課制を導入

しましたが、メリット、デメリットをどのように評価していますか。また、職員の反響や職場の実態をどのように捉えていますか。

国の三位一体改革等に伴い財政状況が大きく変化しており、その対応策として、職員数を減らすべきと判断し、その中で業務の効率性を図りさらに推進するには、大きなグループ編成にして、臨機応変に対応することが最善と考え現在の組織機構にしたものです。組織機構のメリット・デメリットという選択については、現状ではいまのような考え方が選択の余地はないと考えており、職員には現状を理解いただきがんばって欲しいとお話しています。なお、組織機構については毎年検証しており、必要な改善はその都度実施していきます。組織機構の見直しにより、職員一人あたりの仕事の量は増えていると受け止めており、職員の実感としても

従前より忙しくなったと感じているものと思っております。

職員の意欲や熱意、士気高揚を図り、職員が中核的存在として町民の先導役になり活気あるまちづくりを推進するために、職員養成をどのように進めていますか。



職員研修会

職員のやる気の醸成や能力の向上のため、いろいろな研修を行っていますし、町全体の動きや、各課の主要な事業の状況等についても、毎月職員月例会を開き全体で理解を深めています。さらに定期的に幹部連絡会議等で必要な事項を協議報告し徹底しています。しかし一方では、自己研鑽への努力もまた必要であることをお願いしています。

事務事業見直し後の評価検証を町民に説明するため、多くの機会を捉え町の財政状況について理解を得ながら、自立をめざす町政をどのように進めていきますか。

私は、町民の意見に耳を



移動町長室(岩根沢地区)

傾けて町政を行うというスタンスを第一にして、決して十分だとは思っていませんが、町長室の開放や移動町長室を開催してきたところであり、地域支援職員派遣についても同様の考え方にたって進めているものです。また行政改革についても毎年公表してその進捗状況を説明しています。今後とも十分に考えて進めていきます。

## 後期高齢者医療制度の 中止・見直しを要望すべき

町長…国民皆保険と持続性を確保するために必要。



渋谷 雄三郎 議員

### 問題が多い後期高齢者医療制度

平成19年12月定例会でベストプランではないと答弁していますが、なぜそう捉えたのですか。

医療制度は、国民皆保険と持続性を確保するために現在めまぐるしく変わっています。後期高齢者医療制度もその一環であり、ベストプランかどうかは、現段階では判断できません。

広域連合議会の議員が16人で、県内35全自治体の意向が反映されると考えていますか。

問題や課題があるとすれば、広域連合に伝えるようにします。

保険料滞納者に対する保険証はどのようになりますか。

運用は、画一的な発行でなく、該当者の事情に十分配慮した対応を、広域連合に要請していきます。

町独自の低所得者の軽減策はどのようになりますか。

国民健康保険税とほぼ同じ軽減措置になり、新しい制度であることから、推移を見守り、現段階では、町独自の対策は考えていません。

高齢者の健診事業が十分に確保されると考えていますか。また、町独自の事業ができますか。

基本健診は、各保険者が実施し、後期高齢者については、広域連合が市町村に委託して行いますが、本町では、平成20年度の希望者には、従来の健診項目（自己負担なし）で実施します。

平成20年4月実施は、国民皆保険、保健医療福祉の一元化に逆行するものであり、中止・見直しを政府に要望すべきと思いますがどうですか。

すべての関係機関が、4月実施に向けて必死に準備を行っており、本町でも、この制度が円滑に運営できるように万全を尽くす時期です。

### 町の産業振興策について

第5次総合計画に掲げた「町民の所得向上」の到達度はどの程度ですか。

総合産業化による所得向上と就労の場の確保を目標として、町一丸となった産

業振興を図ることとしていますが、数字としての効果はまだ目に見えていません。

現在の安すぎる米価をどのように捉えていますか。

19年産米生産費用が粗収益を上回り所得では赤字となりますが、規模の違い、自家労働との関係、農機具の所有形態の違いにより異なり、一概には言えないところがあります。

町の農業振興策をどのように考えていますか。

一つには地域資源活用型農業、二つには土地利用型農業と施設型農業の組み合わせ、三つには米作農業依存からの脱却で、米については付加価値を、園芸作物は特産品と周年栽培、流通の整備と考えています。

白い発芽胚芽米 月山ま



月山まんま産直市 (東京・品川区)

んまの販売実績はどうですか。

新たな商品であり認知度の点で低く苦戦を強いられており、現在は発芽胚芽米の単品、精米とのミックスマ、精米を販売しています。初年度でもあり赤字を余儀なくされる見込みです。

燃料費高騰対策をすべきと考えますがどうですか。

低所得者への補助を行いました。また、石油事情は不透明で、さらに農業以外のものもあり動向を見て対処します。



## 町民の健康を守る町民体育館の耐震化は必要不可欠

町長…平成21年度耐震診断の予算化を検討。



池上博 議員



町民体育館と改修が進む開発センター

### 町民体育館の早期耐震化を

町民体育館は、町民等しく健康を守る施設であると同時に、自然災害発生時には町の拠点避難施設となる重要な建築物です。平成19年9月定例会の一般質問で、

町民体育館の耐震診断の実施について、統合小学校建設や小中一貫教育のあり方の中で検討すると答弁していますが、その真意は、

現在の体育館の耐震診断は今後実施しなければならぬと考えています。ただ、およそ一千万円ほどの費用が必要と考えており、実施時期については、平成21年度の予算編成の中で検討したいと考えています。なお、診断結果にもよるわけですが、今後の町民体育館のあり方については、現在進めています。統合小学校建設や小中一貫教育のあり方の中で、新しい小学校の体育館建設、さらには将来検討すべきであろう中学校併設の際の体育館のあり方の検討の中で併せて検討していきます。

昭和47年に建設された山形市のあるビルは立派に耐震化されました。

町民体育館の耐震化について、専門業者に見てもら

ったら新築するぐらいの費用がかかるという町長の話がありました。この専門業者ですか。

これは正式に見積りをもらったというようなことではありません。町内の設計業者の方からお聞きした話です。

山形市では、市有施設の耐震化率を100パーセントに引き上げるとしています。

県では、宮城沖地震のマグニチュード7・5規模の地震が99パーセントの確率で発生すると予想されています。また、山形盆地断層帯で内陸直下型地震が起きれば本町の震度は5〜6強、発生が冬期早朝時であれば450人程度の避難住民が発生すると予想しています。

町民体育館は、年間3万人近い方が利用している巨大建築物です。安心、安全な施設とすべく、差し当たり耐震化を図るべきと考えますがどうですか。

巨大建築物の範ちゅうというのかどうかはわかりませんが、昨年度に町立病院で実施し、現在「開発センター改修工事」において耐震構造強化等の工事を進めています。本年6月末に完成する予定ですが、ここ一、二年ですべての要望、課題を解決できないこと、な財政状況でもないこと、体育館のあり方を検討する必要があることから議員にもご理解いただけるものも存じます。

これからも、議員が指摘のとおり利用者の安全と快適な利用という観点から老朽化も含めて、引き続き改善を行ってまいりますのでよろしくご理解をお願いします。

## あづま橋整備の方策は

町長…県事業での実施を強く要望していく。



あづま橋



青山 知 教 議員

### あづま橋の整備促進について

国道112号線の睦合・梅沢地区から吉川・坂の上地区に通じる町道梅沢根際線の寒河江川に架かるあづま橋の老朽化が著しく、また、交通量の増加等に伴い整備が急がれます。これまでの折衝経過と今後の方策はどうなっていますか。

のが現状です。

町単独で実施することは容易ではありませんので、引き続き県に対して有利な事業で実施できるように今後も強く要望していきます。

吉川・坂の上地区の十字路から吉川第4町内会コミュニティセンターまでの区間の拡幅工事の見直しはどうなっていますか。

あづま橋架替工事区間として取り組んでいくという考え方にたっています。

町としても、できる限り早期に実現できるようにこれからも努力していきます。

### 統合小学校の建設設計について

統合小学校の建設については、町民が注目し、大きな期待を寄せています。校舍建設には自然のエネルギーを巧みに採り入れ、環境を考慮したエコ学校をめざすべきと考えますがどうですか。

環境問題は日本のみならず世界的問題であり、教育の観点からも自然エネルギーの活用は必要と考えています。しかし費用の面も考慮すべきですので補助制度やランニングコストの比較なども研究してみたいと思います。

町立図書館を併設し、共に学びあう場を多機能に提供を図るべきと考えますがどうですか。

平成19年度中に作成を予定しています「基本計画設計」の中で具体的に検討したいと考えています。

### 保健センターと社会福祉協議会事務局の一体化について

健康福祉課と社会福祉協議会の事務局一体化体制により、今後の地域福祉諸活動の充実、とりわけ高齢化に伴う地域間のニーズにどのように対応しますか。

2月に開催された理事会及び評議員会で、平成20年度は4項目の重点推進項目で取り組むことになっていますが、町・社会福祉協議会、関係団体により連携を深める必要があると考えていますので一層の支援を行っていきます。

訪問介護事業がケアハイツ西川の居宅サービスと統合されますが、介護保険事業の円滑な施策と運営をどのように図りますか。

今回の訪問介護事業のケアハイツ西川への統合は、訪問介護、通所、短期入所の各介護サービスを1か所で行うことで町民サービスをいままです以上に効果的かつ効率的に利用できるように在宅介護支援の充実強化を狙ったものです。今後ともサービスの確保と質の向上に取り組んでいきます。

## 地域支援職員派遣事業で 町民参加型のイベントを

町長…十分考慮して進めたい。



古澤 俊一 議員

**地域支援職員派遣事業は町内の現況把握や町民参加に絶好のチャンス**

平成19年度から町内全地区に配置された地域支援職員派遣事業の現在の活動状況はどうなっていますか。

平成18年度4地区、本年度から9地区から申し込みがあり、町内全地区でそれぞれ活動を開始しています。

各地区の活動内容はそれぞれ地域からの要望によって違いはありますが、基本的には、地域の課題点などの現状の把握を行い、その解決策を地域と派遣職員で検討しているところですが、



地域支援職員派遣事業（網取地区）

各地区の課題や問題点について、派遣職員の組織力と情報力を発揮しながら、合同会議を開催するなどして意思疎通を図っていますか。

この事業の狙いは、各地区の課題問題点の解決とともに、町全体としての課題問題点の整理とその対策ということであることから、各地域の地域支援は各地域の職員の合同会議を定期的に行うことで、報告を行っていますし、合わせて研修

も行っています。

各地区の活性化を見守りながら全地区の力を結集させて、町の手づくり町民参加型のイベントを考えられませんか。

春には各地域で春祭りがあることから、秋に全町あげての祭りを開催できないものかということの間際を会場にして、秋祭りを開催しているものです。しかし一方で行事が多い、あるいは同じようなものが分散し

て開催されていることもあり、十分考えてさらに進めていきたいと考えています。

地域と町の将来像に深く関わりあいながら、今後の方向性と併せて、人材育成基本方針の中で、どのような方法で職員の能力向上をめざすのですか。

職員の人材育成の目標としては、町民感覚、コスト意識を持ってもらい、業務に関しては政策形成能力、対人能力、職務遂行能力を持つということでの研修を行っています。

**住宅用火災警報装置設置義務と今後の課題について**

住宅用火災警報装置の設置が平成18年度から新築住宅に、既存住宅は平成23年6月1日までに義務化されました。全寝室及び階段上部への取り付けが義務づけられましたが、種類や値段

も多種多様にわたり、とりわけ高齢者世帯の負担は大きいものがあります。取り付けるための補助金制度の創設や共同購入等の考えはありませんか。

この周知については町民に対しパンフレットやお知らせを通して行っています。販売を行政が直接仲介を取ることになると、どうしても悪徳商法に利用される危険性があり、現在、商工会を通じて町内の関係企業が合同で器具の購入と取り付けの申し込みを受け、普及していく方法を検討中です。



住宅用火災警報装置



## 米の需要拡大策は

町長…食育とあわせて消費拡大を期待。



学校田の稲刈り（水沢小学校）



松田昌一 議員

### 農業振興と稲作対策について

我が国は古来から瑞穂の国といわれ、朝食は家族が揃ってご飯と味噌汁を食べるのが食文化でしたが、現在では、ご飯以外のお菓子で食事をとっている子どもたちが見受けられます。

国の食糧自給率が40パーセントを切っている中で、米だけが100パーセントに近い自給率を保っています。

町では、品目横断的経営安定対策に取り組み、営農組合を設立しました。また、白い発芽胚芽米、月山まんまの製造販売を開始しました。しかし、米価の下落は止まっていません。いま、吉川地区をはじめ町内では、水田を守るために一生懸命がんばっています。



共同防除作業（沼山地区）

ます。

稲作は農業の根幹であり、一方では、治水や景観づくりに役立っています。

寒河江川が流れ、水田があり、里山から月山へと続く本町では、稲作対策は重要な政策です。

町では、米づくりを支援するために、学校給食等における米の需要拡大策をどのように考えていますか。

本町の学校給食は中学校の副食給食を除き、小学校はすべて町内調達としています。そのほか病院、ケアハウス、西川も同様で、できるものは対応をしています。

農業機械利用組合等の後継者をどのように考えていますか。

後継者については農業のみならずすべての産業にいたることですが、当面は退職を迎えられる「団塊の世代」を対象に生涯現役をめざすこととしたいと考えています。

米価の下落対策をどのように考えていますか。

米価の下落は社会情勢に大きく左右されますが、所得を上げるためには

農作業のコスト削減、付加価値をつけた製品の製造生産、流通の改革等が挙げられます。本町の場合は農作業のコスト削減のための農用地利用計画による農地集積、共同化、減農薬または無農薬、さらに発芽胚芽米、無洗米、独自ブランド米の確立等の付加価値米の

製造及び生産、そしてインターネット等を含む市場外流通等の導入、また小売店との提携も視野に入れるなど独自ルートの開拓により所得の向上がなされるものと考えています。

畜産等を含んだ農業振興策をどのように考えていますか。

農業は「土づくり」が重要と考え、畜産の堆肥を活用した堆肥センターも視野に入れながら具体的に検討していきます。



睦合・山の神から望む吉川地区の水田

# 議会のうごき

臨時議会

常任委員会

全員協議会

■ 3月31日(第1回)

総務厚生常任委員会

3月31日  
◆平成20年度行政調査の協議  
発言がありました。  
一方、工業については、「定住するためには経済的な裏付けが必要であり、西川のまちづくり応援団員に積極的にアタックするなどして企業誘致を図るべきである。」「現在、町内にある企業が撤退しないような努力をすべきである。」などの発言がありました。

■ 2月22日

◆平成20年度町予算案の内示について

◎西川町国民健康保険税率の一部改正

後期高齢者医療制度の創設に伴い、国民健康保険税の医療分の応能応益の割合を次のとおり改正

所得割 100分の6・9

↓100分の4・6

資産割 100分の25・9

↓100分の21・7

被保険者均等割 2万2

900円↓1万8600円

世帯別平等割 2万1

00円↓1万3500円

◎西川町立病院及び西川町立診療所使用料、手数料条例の一部改正

診療報酬の改定に伴い、規定を整備

■ 2月14日

産業建設常任委員会

◆後期高齢者医療制度の課題調査

■ 1月18日

◆町の商工業の実状調査

県社会保障推進協議会の事務局長を招いて、後期高齢者医療制度の課題調査を行いました。

後期高齢者医療制度は、75歳以上の方を対象に平成20年4月から実施されましたが、その中止と制度の抜本的見直しを求める2件の請願が、平成19年12月定例会に提出され、継続審査になりました。

医療費の適正化を推進することを目的に導入される後期高齢者医療制度の課題について、国では福祉の企業負担を減らす傾向にあり、本人負担の問題等が浮き彫りになりました。

町商工会及び町産業振興課の職員を交えて、町の商工業の実状について意見交換を行いました。

商業については、「町の人口減少が消費人口の減少につながっており、町内の商店が減少し、今後とも減少することが予想される。」「消費人口の減少に歯止めをかけるために、既存の商店の特長ある店づくりをめざして、商店の顔が見える広告を共同で作りはじめている。」などの

町内の商店が減少し、今後とも減少することが予想される。」「消費人口の減少に歯止めをかけるために、既存の商店の特長ある店づくりをめざして、商店の顔が見える広告を共同で作りはじめている。」などの

町内の商店が減少し、今後とも減少することが予想される。」「消費人口の減少に歯止めをかけるために、既存の商店の特長ある店づくりをめざして、商店の顔が見える広告を共同で作りはじめている。」などの

町内の商店が減少し、今後とも減少することが予想される。」「消費人口の減少に歯止めをかけるために、既存の商店の特長ある店づくりをめざして、商店の顔が見える広告を共同で作りはじめている。」などの

町内の商店が減少し、今後とも減少することが予想される。」「消費人口の減少に歯止めをかけるために、既存の商店の特長ある店づくりをめざして、商店の顔が見える広告を共同で作りはじめている。」などの

町内の商店が減少し、今後とも減少することが予想される。」「消費人口の減少に歯止めをかけるために、既存の商店の特長ある店づくりをめざして、商店の顔が見える広告を共同で作りはじめている。」などの

町内の商店が減少し、今後とも減少することが予想される。」「消費人口の減少に歯止めをかけるために、既存の商店の特長ある店づくりをめざして、商店の顔が見える広告を共同で作りはじめている。」などの

町内の商店が減少し、今後とも減少することが予想される。」「消費人口の減少に歯止めをかけるために、既存の商店の特長ある店づくりをめざして、商店の顔が見える広告を共同で作りはじめている。」などの

町内の商店が減少し、今後とも減少することが予想される。」「消費人口の減少に歯止めをかけるために、既存の商店の特長ある店づくりをめざして、商店の顔が見える広告を共同で作りはじめている。」などの

町内の商店が減少し、今後とも減少することが予想される。」「消費人口の減少に歯止めをかけるために、既存の商店の特長ある店づくりをめざして、商店の顔が見える広告を共同で作りはじめている。」などの

町内の商店が減少し、今後とも減少することが予想される。」「消費人口の減少に歯止めをかけるために、既存の商店の特長ある店づくりをめざして、商店の顔が見える広告を共同で作りはじめている。」などの

町内の商店が減少し、今後とも減少することが予想される。」「消費人口の減少に歯止めをかけるために、既存の商店の特長ある店づくりをめざして、商店の顔が見える広告を共同で作りはじめている。」などの



産業建設常任委員会 町の商工業の実状調査

町内の商店が減少し、今後とも減少することが予想される。」「消費人口の減少に歯止めをかけるために、既存の商店の特長ある店づくりをめざして、商店の顔が見える広告を共同で作りはじめている。」などの

■ 3月11日

◎第5次総合計画中期実施計画について

第5次総合計画については、平成16年度から25年度までの10か年間を計画年度としています。町では、平成16年度から19年度までを前期、平成20年度から22年度までを中期、平成23年度から25年度までを後期と3期に分けて実施計画を策定することとしています。

定住人口の維持・確保を中心に据えて、4本の柱を中心施策として掲げ、各施

定住人口の維持・確保を中心に据えて、4本の柱を中心施策として掲げ、各施

定住人口の維持・確保を中心に据えて、4本の柱を中心施策として掲げ、各施

定住人口の維持・確保を中心に据えて、4本の柱を中心施策として掲げ、各施

定住人口の維持・確保を中心に据えて、4本の柱を中心施策として掲げ、各施

定住人口の維持・確保を中心に据えて、4本の柱を中心施策として掲げ、各施

定住人口の維持・確保を中心に据えて、4本の柱を中心施策として掲げ、各施

定住人口の維持・確保を中心に据えて、4本の柱を中心施策として掲げ、各施

定住人口の維持・確保を中心に据えて、4本の柱を中心施策として掲げ、各施

定住人口の維持・確保を中心に据えて、4本の柱を中心施策として掲げ、各施

定住人口の維持・確保を中心に据えて、4本の柱を中心施策として掲げ、各施

定住人口の維持・確保を中心に据えて、4本の柱を中心施策として掲げ、各施

定住人口の維持・確保を中心に据えて、4本の柱を中心施策として掲げ、各施

定住人口の維持・確保を中心に据えて、4本の柱を中心施策として掲げ、各施

定住人口の維持・確保を中心に据えて、4本の柱を中心施策として掲げ、各施

定住人口の維持・確保を中心に据えて、4本の柱を中心施策として掲げ、各施

# 議会のうごき

策ごとに具体的な取組内容、数値目標及び指標等を設定した主要事業を定めた中期実施計画について町から説明がありました。

定住人口の維持・確保を図るための中心施策は次のとおりです。

- ・ 町の核となる拠点地の形成
- ・ 総合産業化推進による所得向上と就労場の確保
- ・ 誇れる教育文化振興と結婚子育て環境整備
- ・ 雪対策とコミュニティ支援

◎政府資金等の繰上償還に伴う財政健全化計画の策定について

公債費の負担比率を小さくするために、一般会計、水道事業会計及び簡易水道特別会計の金利5パーセント以上の地方債を繰上償還するための財政健全化計画について町から説明がありました。

◎西川町災害時要援護者支

援プラン（全体計画）について

災害時要援護者自身の自助及び居住する地域の互助を基本とした全体計画について町から説明がありました。

具体的な個別計画については平成20年度に策定される予定です。

◎高度浄水処理施設整備計画について

安全で良質な水を提供するために、水沢・小沼地区の水道水源施設の改修工事を平成20年度から4か年の計画で約4億5550万円を投じて施工し、クリプトスポリジウム（腸管に感染して下痢を起こす病原性微生物）対策並びに濁水・水量確保対策を施すことについて町から説明がありました。

◎吉川地区公共下水道区域見直しについて

吉川地区を公共下水道区域から外し個別処理区域とすることに伴う、浄化槽設置補助金の対応並びに水路整備計画等について町から説明がありました。

## 西村山地方議長協議会懇談会

西村山地方議長協議会主催の懇談会が12月26日、寒河江市の県村山総合支庁西庁舎で行われ、8人の議員が出席しました。

懇談会では、県及び市町村の将来人口推計、地方分権及び地方財政をめぐる主な動き、村山地方の市町の財政状況と地方財政制度等の観点から、西村山地方の現状と課題について県村山総合支庁企画振興課長の講演がありました。



西村山地方議長協議会懇談会

## 大江・西川両町議会議員協議会総会

大江・西川両町議会議員協議会の総会が1月29日、大江町の中央公民館で行われ、9人の議員が出席しました。

協議会は、両町の共通の利益、開発促進に寄与し、両町の住民福祉のため同一歩調を基盤として、強力に推進することを目的としています。総会では、主要地方道貫見間沢線の整備促進（本町では沼田地区の区間）について県に要望すること



大江・西川両町議会議員協議会総会

が議決され、来賓として出席された阿部、鈴木両県議会議員に要望しました。また、2月13日には、県当局に要望しました。

## 行政調査のために来町された議会

### 岩手県九戸村議会

1月23日、集落営農の取り組み状況等調査のため、14人の議員と議会事務局職員、村職員3人の17人が来町されました。



# 平成19年 議会のあしあと

## 議会開催状況

区分	会期日数				参考	一般傍聴者	
	本会議日数	休会中の委員会日数	その他の休会日数	計	本会議日委員会日数		
定例会	3月	3	4	2	9	1	32
	6月	3	—	—	3	2	31
	9月	3	4	2	9	1	31
	12月	3	—	—	3	2	49
	計	12	8	4	24	6	143
臨時会	5	—	—	5	—	1	
年間開催	17	8	4	29	6	144	

## 付議事件等

区分	町長提出						議員提出					合計
	条例	予算	決算	その他事件	専決処分	計	条例	意見書	決議	規則その他	計	
定例会	17	34	12	13	—	76	2	6	—	14	22	98
臨時会	1	—	—	6	1	8	—	1	—	9	10	18
計	18	34	12	19	1	84	2	7	—	23	32	116

## 委員会開催状況

委員会別	開催延日数					
	付託事件審査		所管事務調査		計	
	会期中	閉会中	会期中	閉会中		
常任委員会	総務厚生常任委員会	7	—	7	16	30
	産業建設常任委員会					
	広報公聴常任委員会					
議会運営委員会	2	8	—	—	10	
特別委員会	8	8	—	—	16	

※特別委員会の名称

平成19年1月1日～4月30日 議会広報調査、議会活性化調査、予算の3委員会

平成19年5月1日～12月31日 決算の1委員会

## 議会全員協議会

開催延日数		
会期中	閉会中	計
5	10	15



傍聴、ありがとうございます。(12月定例会)

## 議会活動日数

区分	本会議	委員会		意見書 提出	全員 協議会	研修会 調査視察	陳情要望	公共団体等 の 会合出席	その他	計
		会期中	閉会中							
議長	17	14	12	—	15	15	1	65	32	171
副議長	17	14	13	—	15	8	1	25	11	104
議員(平均)	17	16	17	—	15	8	—	15	7	95

## 請願・陳情

請願・陳情等				
受理	審議	採択	不採択	継続審査
6	—	3	1	2

## 一般質問者数

3月	6月	9月	12月	計
6	7	5	4	22

# 草屋根葺き



## 町内唯一の職人

高橋光弥さん  
(吉川・71歳)

本町でただ一人、草屋根を葺いています。西村山地区でも7人しかいません。西村山地区の職人で、平成3年から4年までの2か年間、そして平成16年と2回にわたり本山齋堂等本堂(国指定重要文化財)の屋根葺きを手がけました。屋根の端の「みの子」部分を担当しましたが、建設当時の仕上げが求められる工事で、神経を使いました。反面、出来上がったときはほっとしました。

昭和27年3月、中学校卒業と同時に「定職をもった方がよい」という親父の勧めで、実家の近くの宇野直太さん(海味)のところに修業に入りました。昭和32年4月に独立しましたが、当時は草屋根からトタン屋根に移行の時期で、町内で草屋根葺き職人が30人ほどいましたが、板金業に変わ

る人が多くいました。しかし、自信が出てきたときで、ためらわず草屋根葺きに賭けました。

草屋根の場合、一般的に軒の部分で7年、ぐしの部分で15年が葺き替えの目安と言われています。設計図のない長年の経験と勘に基づいた見合いの仕事の色彩が強く、屋根の特徴を捉えて雨水が漏らないように、平らに葺くことは何年経っても難しいものです。

町内でも草屋根は数えるほどしかなくなり、民家ではほとんどなくなってきました。文化的価値のあるものを使命感をもって存続させるために精力を傾けているつもりです。これからも美的、芸術的、技術的感



職人技の粋を集めた「みの子」部分

64号の紙

敵かあひなに

どうぞ召し上げ



3月3日に開催された、にしかわ保育園の「ひなまつりお茶会」。平成14年の開園以来行っている行事で、年長児が年少児及び年中児にお茶を立てて振舞いました。

この日のために年長児は練習を重ね、大人顔負けのお手前でした。

議会へのおさそい

皆さん傍聴してみませんか  
**次回定例会は  
6月招集です**

## 編集後記

ちょうど1年前、私たちは選挙戦の真っ只中にありました。

英語で「ライバル」は「競争者、敵手」と訳しますが、本来は「仲間」でありました。ラテン語に由来した「同じ川の水を共通に使う人・仲間」の意味。ライバルは「近隣の人」で、とかく反目しがちであり、「好敵手」となりました。

しかしながら基本的には、「同じ川の水」を使っている人間同士の認識を忘れてはいけません。

月山の湧水と、寒河江川の清流を共通に使い、町民が互いに仕え合い、共通の仕合わせの流れをより大きく実現したいと願い、協働のまちづくりに励みたいものです。(青山 知教)

《発行 編集責任者》  
議長 黒坂 久一  
《編集委員》  
委員長 井場 榮治  
副委員長 池上 博  
委員 宮林 昌弘  
青山 知教